

# 簿記部

## 『簿記がわかれば経済がわかる!』

コミュニケーションをとるために、言葉が重要になってきます。簿記は、英語より世界中で広く使われる「共通言語」です。これからの社会を生きていくためには欠かせないものです。また、簿記を学び資格を取れば、自分の武器になります。



現在、1年生7名、3年生3名と部員数は少ないですが、反対にきめ細かい指導が受けられます。平日毎日、学年に合わせた目標に向かって切磋琢磨しています。

### 【活動概要】

《活動時間》 15:45~17:30

《活動場所》 第2簿記室

《顧問》 佐藤正樹

《学年目標》

**1年生** 全商簿記実務検定 1級 取得

**2年生** 日商簿記検定 2級 取得

全商会計実務検定 取得

全道商業新人大会 入賞

**3年生** 全道簿記コンクール 入賞

日商簿記検定 1級 チャレンジ

《その他のチャレンジ検定》

○全商珠算電卓検定 1級 取得（電卓）

○全商商業経済検定 1級 取得（マーケティング・ビジネス経済A）



——部活動の様子——

### 【1学期の活動報告】

6月15日（金）札幌にて、第34回北海道高等学校簿記コンクールに3年生3名が参加しました。残念ながら個人戦は入賞ならず、団体戦も6位（12校中）という成績でした。

3年生はこれで一区切りになり、今後は自分たちの進路に向けて頑張る時期になります。



6月24日（日）に行われた全商簿記実務検定3級にチャレンジしました。これから何度となく受験する各種検定の雰囲気と検定の緊張感を実感するために受験しました。入部して2ヶ月、宿泊研修や考査などを挟み時間のないなか、ほぼ満点に近い点数で受験者全員が合格しました。



——大会の様子——



——夏休みの様子——

現在は夏休み中に2級の範囲を終え、パーフェクトになるべく部活動をしています。夏休み明けからは、全商簿記検定1級の学習に入っていきます。

## 【2 学期の活動報告】

11月4日(日)江別にて、平成30年度北海道高等学校商業実務競技新人大会に1年生7名が参加しました。1年生ながら個人では17位(58人中)・団体では3位[実質5位](12校中)



—札幌学院大学前にて—

となりました。バスにて5部合同で移動、ホテルの会議室にて3部合同練習[簿記部・OA部・ワープロ部]、札幌学院大学での新人大会の本番に挑みました。そのときどきに場をわきまえ、良く動いていました。次回は結果を残せるようそれぞれに努力を積み重ねていきたいと考えます。



—ホテルでの練習風景—

11月11日(日)に実施された「全商電卓検定1級(通常1年生は2級を受験します)」を受験し、簿記部1年生7名が『**全員1級に合格**』しました。短期間でよく努力したと思います。現在は全商簿記検定1級取得に向けて、財務会計が終わり、これから、原価計算の範囲を学習します。



※ **ただいま、「全商簿記検定1級全員合格」を目指して奮闘中です。**

## 【検定試験合格への道】

### その1 『継続は力なり』

毎日継続して学習することが大切です。短期間の詰め込み型の学習より、毎日少しずつのコツコツ型の方が絶対に力がつきます。

### その2 『“なぜ” “どうして” の気持ちを大切に!』

ただ問題集を解いて○×をつけるだけでは、実力はつきません。“なぜ間違えたのだろうか?” “どうしてこの答えになるのだろうか?” 本当の意味を追求することが力になります。

### その3 『自分なりの工夫をしよう!』

テキストに書き込む。問題集に書き込む。マーカーを使う。余白にメモする。間違えたところに付箋を貼る。ひと工夫することで、どんどん頭に入っていきます。

### その4 『教える楽しさを知ろう!』

クラスの友達、部活動の仲間、後輩、人に教えることができれば、真の実力の証です。教えることで、頭に刷り込まれていきます。また、自分の確認にもなります。教えあうことは学習効果を上げるばかりでなく、コミュニケーション能力の向上にもつながります。

## 【ちょっと寄り道1】

---

### 『計上する』って、なんだろう・・・！

簿記の教科書や問題集を見ると『計上する』という表現を目にすることが多いです。この『計上する』とは、「**数えあげること**」・「**全体の計算の中に組み入れる**」ことを言います。

簿記的に考えると、「帳簿上に記入すること！」・「会社の取引を必要な決算書類の中に、記録・計算・整理し、組み入れること！」になります。

簡単に言うと 「取引を勘定科目にあてはめて仕訳すること！」  
だと思います。

## 【顧問より】

---

高校生活はあっという間に終わります。私たちと一緒に放課後を有意義に活用し、資格取得ばかりではなく、お互いに教えあうことで、人間性のスキルアップを図ってみませんか。